

ごみ拾い大会で世界を救おう！！

17班

要旨

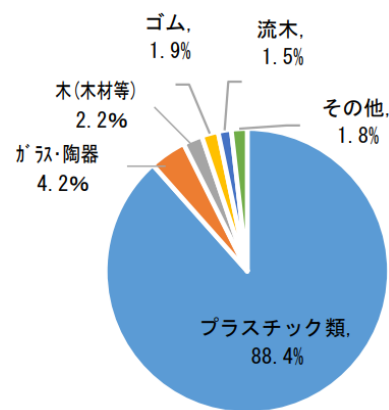
能登の海洋ごみの中でとりわけ大きな問題となっているマイクロプラスチックを取り除くために、本班は、ごみ拾い大会「ビーチクリーン・トライアル」を提案する。これは、既存のごみ拾い大会を調査し、その結果を活かしつつ、我々オリジナルのごみ拾い大会として計画したものである。この計画では、ごみ拾いを「大会」として競技性を高めることで、マイクロプラスチックの問題の解決、さらには環境保全への啓発という目的が達成されることを見出した。今後は、現状のプランを実現していくために、協力を予定している企業からのフィードバックをもとにブラッシュアップを重ねていく。

1.研究背景と目的

かつて人類が生み出した最高の発明の一つであるプラスチック。我々の生活を大きく変えたプラスチックは現在、プラスチックごみとして世界中に大きな影響を与えている。そしてもちろん能登もその影響を受けている。能登の美しい海岸がプラスチックごみによって汚されている。海岸に漂着した大量のプラスチックごみの行く果ては、マイクロプラスチックだ。マイクロプラスチックとは直径5mm以下の微細なプラスチック粒子の総称だ。プラスチックごみが紫外線や波によって劣化、粉砕されることでマイクロプラスチックとなる。マイクロプラスチックが海に流入すると、海中の生態系に大きな影響を与えられる。しかし、どのような影響が与えられるかはまだ全て解明されていない。そして、それは我々人間に関しても同様だ。我々はこのマイクロプラスチックという未知であり大きな脅威となりうる問題に立ち向かっていかなければならない。今回はこの大きな問題を解決するための一助となるようなプロジェクトを提案する。

2.調査・分析

能登の海岸におけるマイクロプラスチック問題の現状を知るため、我々は石川県の先行研究を調査した。以下の内容は、平成22年から26年度の5年間、環境省が、羽咋市柴垣海岸で海岸ごみを調査したものである。この調査では、海岸ごみの合計個数のうち、各種類のごみが占める割合が算出された。結果は、海岸ごみ全体で、プラスチック類の割合が88.4%を占めていた。(図1)



【種類割合 (個数)】

図1 羽咋市柴垣海岸における海岸ごみの種類割合

このように、能登のマイクロプラスチックによる問題は深刻であり、我々自身が海岸ごみを取り除き、問題の解決に努める必要がある。さらに、令和6年能登半島地震以降、観光客の減少や地域経済の停滞が問題視されている。そのため、単純な復興支援ではなく、継続的に人が訪れる仕組みを作ることが必要である。よって実際にごみ拾い大会によってごみを取り除き、日常生活での行動を促すようにすることが効果的だと考えた。以上のことから、本班は、以下の計画を提案する。

3.解決に向けた提案と実践

そこで本企画では、ごみ拾い大会を競技化したイベント「ビーチクリーン・トライアル」を提案する。

ごみ拾いイベントの先行例として、2024年に千葉県で行われた高等学校内対抗プロキングがあげられる。プロキングとはジョギングとごみ拾いをかけ合わせたスウェーデン発祥のフィットネスのことである。このイベントでは幕張地域の2校の高校内にゴミの分別と計量を行うプロキングステーションを設置し、参加する高校生が最大6名1チームに分かれ、約10日間の期間内にプロ

キングステーションに集めたごみの総量を競った。

今回の大会は、能登の海岸で開催し、参加者が制限時間内に海岸ごみを回収し、内容に応じて得点を競う形式とする。

開催場所は千里浜海岸を想定しており、競技時間は60分とする。参加条件は年齢不問とし、3～5人で1チームを構成する。

得点は各ごみ、g単位で換算し、環境改善への需要が高いごみほど高得点となるように設定する。特に海洋のマイクロプラスチックへの対策を意識し、海洋プラスチックごみの回収を促進する仕組みとする。具体的には、毎年、タバコは大量にポイ捨てされている。そして、タバコのフィルターには多くのプラスチックが含まれており、それらが分解されることでマイクロプラスチックおよびナノプラスチックが発生する。このことから、タバコを1gで1点、ペットボトルを含むプラスチック製品・缶・ビンを100gで20点（これらは後に分別して捨てる）、燃えないごみを100gで10点、粗大ごみ一つあたり15点とする。また、海岸に存在するシーグラスや金属については”キラポイント”とし、研究・展示目的として収集を行う予定である。得点は小数点以下を切り捨てて計算する。

本企画の特徴は、清掃活動を単なるボランティア活動でなく競技として成立させる点にある。競技性を取り入れることで、参加者がゲーム感覚で楽しみながら環境保全活動に参加できる仕組みとなっているところである。また、高得点対象としてプラスチックごみを設定することで、参加者が積極的にプラスチックごみを回収するように誘導し、海洋のマイクロプラスチック問題への興味・関心を向上させることを目的としているところである。

さらに、本企画は復興支援との連携も検討している。都市周辺からの参加者を対象として、環境保全活動に加えて地域観光や宿泊を組み合わせることで、能登への継続的な来訪を促す。復興ツアーとして、千里浜海岸での競技参加に加え、宿泊施設の利用、地域の飲食店での食事などを取り入れることを検討している。宿泊先としてはテルメ金沢や宝仙閣などを候補とし、宿泊費を割引することで参加しやすくするこ

とも考えられる。宿泊施設側にとっても、客の増加や若年層への認知拡大、地域貢献イメージ向上などの利点が期待される。

また、本企画では企業や大学との連携も視野に入れている。提携先候補としては、スギヨ、芝寿し、ロッテ、ロート製薬、金沢大学などを想定している。企業による参加賞や補食の提供、熱中症対策や衛生支援、大学によるごみ拾いに使用する道具の提供など、多方面での協力が可能であると考ええる。

本企画によって期待される効果は多くある。環境面では、海岸の美化や海洋プラスチックの削減、環境に対する理解の推進が期待できる。また、地域面では、観光客の増加や宿泊に対する需要の拡大、地域のモノ・コトの消費の促進につながると期待できる。最後に、社会面では、若者が積極的に参加できる復興支援として機能し、SDGsに対する関心の向上や地域コミュニティの形成にも寄与すると考えられる。

以上より、本企画は環境保全・競技性・観光・震災復興を融合した地域活性化の企画として位置づけることができる。能登の資源を活用しながら、継続的な集客を生み出すことで、単発で終わらない復興支援につながる可能性がある。また、参加者が楽しみながら、参加者自身に大きく影響する社会課題の解決に関わることができる点に、本企画の大きな意義がある。

4. 考察

交通手段の整備や集客方法、安全管理、計量ルール改善、継続的な開催に向けた資金調達などの課題も存在する。

交通手段や集客方法の面では、特定の地域の人しか集まらない、石川県へアクセスできる公共交通機関が十分に備わっていないということがあげられると考える。

ごみ拾い大会の計画の面では、軍手やごみ拾い用のトンブ、マスクなどの準備、ごみ袋の容量の調節があげられると考える。

特に交通手段を固定すると参加地域が限定されるため、多方面からアクセス可能な仕組みづくりが必要であると考えられる。

安全管理の面では参加者の安全や交通事故の防止のために規制線や安全面のルールを決める必要がある。

集客方法の面では、ごみ拾い大会をどのように宣伝するかという課題があげられる。

安全管理の面では、特に夏に実施する場合は、海岸には日陰が少なく、夏場は気温が高く、日光が注ぎ続けるため、水分補給の呼びかけや適度な休憩を呼びかけるなどの熱中症対策を行う必要がある。

計量ルールの改善の面では、よりよい大会を実施し続けていくために、実施後にあげられる問題点や公平性を考慮して新たなルールを追加・修正する必要がある。

資金調達の面では、回収したごみの処理や宣伝などに資金が必要であるため、企業や団体の協力が得られる際はどの企業や団体がスポンサーとなるかを決める必要がある。

5. 今後の課題と展望

石川県へのアクセスと交通の仕組みづくり、宣伝による多方面からの集客、備品準備や公平な計量ルールの模索、夏場の熱中症対策や参加者の安全管理の徹底、そして、企業や団体からの資金調達が課題である。

今後の展望は、協力を予定している企業や団体に現段階での計画を提出し、フィードバックを頂き、ブラッシュアップをすることである。

また、来年の課題研究に採用してもらい、実践に向けた取り組みを目指している。

6. 結論

マイクロプラスチックは能登ひいては全世界において大きな問題となっていることを再確認した。能登におけるプラスチック汚染は目を追うご

とに悪化している。しかし、震災からの復興を行うことも急務である。そこで本プロジェクトではこの能登の海のプラスチック汚染の解決と震災復興を同時に実行できるビーチクリーン・トライアルを提案した。現在、世界中でごみ拾いをスポーツへと昇華させ、地元の経済の活性化や環境問題への意識向上をも行う動きが広がりを見せている。能登という被災地でこの取り組みを行うことはごみ拾いという行為が社会的に大きな意義をもつものとして地位を獲得することにつながる。能登の美しい里山・里海をプラスチック問題に破壊させてはならない。

7. 参考文献・協力団体

石川県. 石川県海岸漂着物対策推進地域計画(案).

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/haitai/chiikikeikaku/documents/zennbunn.pdf>(参照2026-7-2).

日本財団(2024).「スポーツ振興が進む千葉県幕張からごみ拾い×ジョギングを推進！千葉県幕張地域の2校で高等学校内対抗プロギングを開催しました。幕張エリアのごみを合計95kg回収！」.PRTIMES .

<https://prt-times.jp/main/html/rd/p/000003171.000077920.html>, (参照2026-7-2).

<https://tabigomi.com/>

ワールドカップ開催も決定した「スポGOMI」の魅力とは？.

https://www.nippon-foundation.or.jp/journal/2023/88812/ocean_pollution(参照2026-7-2).